

---

# HUNTER × HUNTERの世界

クルト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

HUNTER×HUNTERの世界

### 【著者名】

クルト

### 【作者名】

クルト

### 【あらすじ】

HUNTER×HUNTERに行くことになってしまった主人公の奮闘記

## 旅立ち（前書き）

完全初心者が趣味で書いているものなので誤字や文面がおかしい部分もあるかと思いますが、それでもよろしければ読んでみてください。

「いはぢだ？ 天国か？」

目が覚めると、真っ白な何も無い空間を漂っていた

「おい、お前のせいで父上に怒られたんだぞ、責任とれよ」  
声のする方を振り向くとそこまでは誰もいなかつたはずなのに、  
偉そうな態度の子供がいた。

「こきなりなんなんだよ、それよつこいぢだ」

「めんどくせえやつだな」ゴシンヽ？（ヽヽヽ）――！」

「ハつ当たりするでない、お前のミスである」  
子供の後から光と共に立派な髪を生やした爺さんが現れ、杖で子供  
の頭を叩いた。

「いきなり何するんですか父上」

「もういい、お前は黙つておれ、少年よいきなつのことと混乱して  
いると思うが

落ち着いて聞いてくれないだろ？」

取り乱しても何も解決しないだろうと思ふ。

「分かつたまづこの状況を説明してくれ」

「まず自己紹介からするかのうわしは神じあ、  
そしてこのバカ息子に人間界の寿命の管理を任せていたんだが、  
このバカ息子のミスでおぬしの命の源である口ウソクを消してしま  
つたのじあ、

本当に申し訳ないお前も謝らんか」

「すみませんでした」

「どうゆつことだよそれ！」

「いなこと絶対にあつてはならんのじあがと言つておぬしを生き  
返らせる訳にもいかんだ、

「そりで一つの選択肢を選んでもらひ、一つはそのまま天国に行くか、もう一つは別の世界に行つてもらひ、その世界はマンガのHUNTER×HUNTERじあもひけん謝罪の意味も込めて特典はつける2個までだ、あと不死とかはなしじゃ」

「なんでHUNTER×HUNTERなんだ？」

「わしが好きだから……」

「特典の内容は俺が決めていいんだな、少し考えさせてくれ」

HUNTER×HUNTERあの世界は誰がいつ死んでもおかしくない死と隣り合わせの世界だ、慎重に考えないとすぐに死んでしまう。

「まず、努力した分だけ結果がでる体、（訓練しても結果がでないと意味がないからな）

二つ目は修行ができる空間で効果は、その空間で何年たつても年を取らないそれと修行内容にあつた環境を再現できる効果をつけてくれ、これは俺の念能力とは関係ないものに（能力のメモリーの無駄使いはしたくないからな）」

「ん～～一つははいこが、二つについては少し厳しいのう、制約を付けるが、

無制限は無理じあから使えるのは1回だけ部屋の使用時間は20年

「容姿は特典の範囲なのか？」

「それはサービスじあから心配ない」

「だったら白髪で田の色は緋色で」

「それじあどうする修行してからHUNTER×HUNTERの世界の送るでいいかの？」

「それでいい

## 主人公設定（前書き）

修行及びハンター試験合格については割愛させてもらいます、  
一ツ星ハンターになつたところから本編は開始させてもらいます。

## 主人公設定

名前：クルト

性別：男

性格：慎重に考えてから行動タイプ

年齢：23歳（原作開始時）

職業：一ツ星ハンター（ブラックリストハンター）

容姿：白髪に緋色の目（緋の目ではない）

髪型は、さわやかナチュラルヘア

系統：変化系

能力：闇牙（具現化系、変化系の複合技）

日本刀の柄を具現化し柄にオーラを込めて刃をつくる、

ほかにも電気や水（蒸気、氷）風の刃に変化させることもできる、

2本具現化できるがオーラの消費量が2倍に増える。

鞘も具現化可能で抜刀術も可能

（烈火の炎の闇水をイメージして作った）

制約

・常に刃を維持するためにオーラを消費する。

・電気、水（蒸気、氷）、風の刃に変化させるとオーラの消費量がオーラの刃の2倍消費する。

・闇牙を具現化せずにオーラを電気、水（蒸気、氷）風に変化させると

威力及び効果が6割減少する。

風神雷神（変化系、強化系の複合技）

末梢神経を電気に耐えるように強化し直接電気流し込

み、

体に風を纏い高速戦闘を可能にした、

闇牙の制約で（闇牙を具現化せず

にオーラを電気、

水（蒸気、氷）風に変化させると効果が6割減少する）

とあるが闇牙を具現化してさえいれば  
100%の効果で使用可能

（キルアの神速を参考にして作った）

制約

- ・1日に使用可能時間は10分で能力発動から10分たつと自動的に強制解除され
- 24時間使用不可能になる

主人公は常に日本刀を2振り常に持つていて格下相手にはそれで対応する。

## 第287期ハンター試験原作介入（前書き）

主人公設定で少しだけ追加しました、  
今後もこういったことがよくあると思いますので  
そこは責めないでもらえると助かります。

## 第287期ハンター試験原作介入

修行を終えた俺はハンターになるために、第284期ハンター試験を受け合格した、

20年ひたすら修行したかいもありあつさりと合格した、原作が第287期ハンター試験なので原作の3年前みたいだ

原作に介入しようと決めていた俺は実戦での戦闘経験を積むために賞金首を探して世界を飛びまわる生活をしているとその功績が認められ

3年後一ツ星ハンターになることができた。

どうゆう方法で原作介入しようか悩んでいると

『プルルル』

携帯がなり番号を確認するとネテロ会長だった

ネテロ「クルト仕事の依頼があるんじあが第287期ハンター試験の試験官を

やつてくれんかの」

原作介入できるチャンスと思った俺はその依頼を受けることに決めた、

指定された場所に向かうとメンチと組んで試験官をやつてくれと言われた、

会長からメンチは食の試験をするらしいから暴走しないか監視してほしいと、

ある賞金首を追っていた時にメンチと知り合い食のことで意気投合

した俺なら

暴走しても止めることができるだらうとの判断だった。

メンチ「ところでクルト試験内容は何になるの?」

クルト「薬草にしようかと思つ」

メンチ「薬草つてもしかしてあれのこと? あんたもイジワルね~」

試験会場となつてゐるビスカ森林公園には香辛料で

有名なパドキアという珍味の薬草がある、

薬草を取つてくる簡単そうな内容だが問題は薬草のある場所が問題だつた

魔獸の巣のすぐ近くにしか生えない薬草なのだ魔獸の強さはそれほど強くないので

受験生を試すには丁度いい内容になつてゐる

原作でのブハラの試験内容にしようと思つたが、あんなどんでもない量の豚の丸焼きを

処理できる胃袋は持つていないため、この試験内容したのであつた。

クルト「メンチは何にするんだ?」

原作知識はあつたが確認のために聞いておくことにする、現段階でもブハラの位置に俺がいることで原作を変えているため今後どう原作が変わつていくか分からないからだ。

メンチ「寿司にしようかと思つてね」  
クルト「寿司は海鮮魚だろ?」には川しかないから味にこだわるなよ、

洞察力を試す試験が味の試験に変わると意味ないからな

メンチ「分かつてゐわよ、そんなことぐらう」

クルト「それならしい、そろそろ時間だな」

## 『ボーン』

試験開始だゆつくりと扉が開いて受験生が見えてきた原作組はちやんと

一次試験に合格してるみたいだ主人公組に会えたことに少し感動しつつ表情に

出さないよう受験生を観察する

メンチ「おまたせ、そんな訳で一次試験は私たち美食ハンターが担当するわ」

クルト「美食ハンターって俺は違うぞ」「いいじゃないそんなこと関係ないわ」

いや関係無いことないとと思うんだが・・・・まあいいか

レオリオ「美食ハンター?」

クラピカ「美食ハンターとはあらゆる食材を探究しさらに新たな美味を創造する

ハンターのことだ」

さすがクラピカよく知っている、まあハンターを目指すならそれぐらい知つてて

欲しいが知らないって受験者多いからな

メンチ「一次試験の課題は料理よ」

料理! ！

まあ気持ちは分からぬくないがな、いきなり料理が課題と聞かされると、  
ただそれはメンチの前では禁句だほら機嫌が悪くなつた

メンチ「不満がある人は今すぐ帰つていいのよ～」

メンチの言葉に黙る受験生一同

クルト「ではまず俺から課題を出す」の写真にあるパドキアの葉を取つてきたもうう、  
写真は人数分あるから心配いらない制限時間は2時間パドキアの葉を俺に

渡したものだけが次のメンチの試験を受ける資格を得る、  
なおこの試験で他の受験生から奪うなどの行為をしたものは即刻不合格とする、

常に監視しているから注意するよつてそれでは「次試験開始！！」

いつせいに散つていく受験生全ての受験生が見えなくなつたのを確認して

クルト「メンチ落ち着け」

メンチ「分かつてゐわよ、でもあいつが」

あいつとはヒソカのことだ、俺達の姿を見た瞬間他の受験生に解らないように念で威嚇してきてるからだ

クルト「気にするなそれに狙いは俺だらあいつ俺の正体に氣づいてるな」

さあやまな賞金首を捕まえてきた俺は一部のものたちには有名にな

つて いる、

白き閃光のクルトと言ひ異名までついてしまつたのだ  
俺の能力風神雷神を見たものがつけたらしい

2 時間後 . . . . . . . . . . . .

結果は忠告したのにズルしよつとした奴などいたが、原作組は全員  
合格していた

52名少し少なくなつてしまつたが仕方ないこれぐらいクリアでき  
ないと

ハンターなどやつていけないからだ、  
さてと問題は次だな暴走するよなやつぱり . . .

## メンチの暴走

メンチ「一次試験後半私のメニューは寿司よ」

寿司？

全く分からぬ受験生のためにヒントを出していくメンチしばらくすると、

403番レオリオが自身満々にレオリオスペシャルを出してきた、どんなんのか知つてはいたがあれは笑いをこらえるのには苦労したあれば料理ですら無い。。。。

その後も次々と料理をもつてくるがこいつらセンスがなさすぎるぞハンゾーが寿司を作つてきたが美味しくないからダメだつた、それを聞いたハンゾーがついに爆弾を投下した

ハンゾー「なつなんだとー！握り寿司つてのは一口サイズの長方形に握つて

その上にワサビと魚の切り身をのせるお手軽料理だらうが～～～！」

あ～～あこがなることは解つていたがこれでほかの受験生にバレた、それを聞いたメンチはキレてしまい味の審査になつてしまつた

クルト「メンチいい加減にしろ」

メンチ「黙つてて」

これ以上美食ハンターでもない俺が言つても逆効果だと判断した俺は、会長であるネテロに電話をかけることにした

ネテ口「なんじあクルト」

クルト「会長の言つた通りメンチが暴走し初めてまして  
だから言つたじあないですか美食ハンターでない俺が  
何言つても逆効果だとこちらに来て会長から注意してもらえません  
か」

ネテ口「しかたないの～～～」

電話を切つた俺はやつぱり全員不合格か会場の雰囲気が最悪だ

『ドーン』

255番「納得いかねえな、とてもハイそうですかと帰るきになら  
ねえ、  
俺が目指してるのはコックでもグルメでもないハンターだ…  
しかもプラックリストハンター志望だぜ美食ハンター」ときに  
合否を決められるのは納得いかねえって言つてるんだよ」

名前を忘れたがアホが文句を言つてている「こつハンターを舐めてる  
だろ

メンチ「美食ハンター」とき?」

まづいなメンチはこいつを殺すつもりだ、あいつの発言には俺も力  
チんとくるが

試験官が直接手を下すのはまづいと思つた俺は

『シユ・・・ドン』

一瞬で数Mの間合いを詰めて255番を念を込めてないパンチで約  
10Mほど殴り飛ばした、

俺の動きが見えていたのは受験生だと2人だけヒソカとイルミだ

クルト「メンチにも落ち度はあるがハンターを舐めるものいい加減にしろ

貴様「ことがハンターを愚弄するな、

次の試験のことを考えて手加減したが次はないと思え！……」

255番「何するんだてめえ」

俺が殴つたことでメンチは少しだけ落ち着いてきてるみたいだ

メンチ「255番あんたブラックリストハンター志望だといったわね、

それなのに彼のことも知らないなんてお笑いぐさね、  
それにブラックリストハンター志望？？笑わせんなつつの  
ハンターの中でも最も危険な分類に入るものよあんたなんか話にも  
ならないわ」

俺の動きや外見から判断したのかクラピカが

クラピカ「まさか……その白髪に緋色の目のブラックリストハンター……

もしかして白き閃光のクルト実感23歳にして一ツ星ハンターにな  
つた」

やつぱりクラピカは知ってるみたいだな

彼もブラックリストハンター志望だから知つても不思議じあ  
いからな

クルト「白き閃光と言うのは大げさだが多分それで違いない、

今ハンター協会に対応もらつていてるからおとなしく待つていろ」

それを聞いたメンチはこちらを睨んでたが受験者一同は少し安心したのかさつきよりも場の空気が静かになった変わりにヒソカからの挑発が強くなつた、

少しするとハンター協会のマークが入つた飛行船が到着すると飛行船から飛び降りる人影が見える

登場がいくらなんでも派手すぎるだろ会長！

会長の説得もあり原作通り再試験になつた課題は「湯で卵」俺はこの世界の非常識さに慣れてしまつてはいるがあんな断崖絶壁からちゅうちょなく飛び降りることのできることのできる原作組には呆れる結果255番は戦意喪失でリタイア一次試験合格者は42名となつた

## 第287期ハンター試験終了（前書き）

一次試験が終了した所ですが主人公は試験官であるため、試験終了まで割愛させてもらいます。

## 第287期ハンター試験終了

一次試験が終了し三次試験会場に移動中の飛行船のとある一室  
試験官であるサトツ、メンチ、クルトが集まり雑談している

メンチ「ねえ、どう思つ? 一度全員落としとこで言つのもなんだけ  
どさ、

なかなかの粒ぞろいだと思うんだけどね、私294番  
なんか光つてたとおもうんだけどサトツさんどう?」<sup>ハンゾー</sup>

サトツ「ん、そうですねルーキーがいいですね今年は私は断然99  
番ですな」<sup>キルア</sup>

メンチ「クルトはどう思つた?」

クルト「ルーキーで言えば404番<sup>クラビカ</sup>彼は全体的にバランスがいいし  
頭の回転も速そうだそれ意外だと44番<sup>ヒソカ</sup>だなあれば異質だ」  
サトツ「彼は我々と同じ穴の貉です、ただ彼は我々より暗い部分を  
好むようですが」

ヒソカについては警戒しておぐらいでいいだろ、  
試験中に戦闘になることはないと思うが警戒しておいて損はないだ  
ろうからな

受験者のほとんどがぐつたりとして次の試験に向けて英気を養つて  
いる、

三次試験会場であるトリックタワーに着いた

ここから最終試験までは介入することができないので  
最終試験まで念の基礎等、訓練に励むことにするツエズゲラのよう  
にサボつて基礎をおろそかにしていると後で痛い目にあつことは分か

つて いるので、

俺は 一 日 た り と も 基 础 訓 練 を 欠 か し て な い。

四 次 試 験 が 終 了 し た 、 合 格 し た メ ン バ ー を 聞 い た 俺 は  
少 し 驚 い た メ ン バ ー が 一 名 増 え て い る か ら だ 原 作 だ と 9 名  
(ゴン、レオリオ、クラピカ、キルア、ハンゾー、ヒソカ、  
イルミ、ポックル、ボドロ) だ つ た が ポンズ が 増 え て い た 詳 し く 聞  
い て み と 、  
レオリオ の タ ゲ ッ ト が ポンズ で は な く 、 同 じ く ポンズ の タ ゲ ッ  
ト も  
バ ー ボ ン で は な く 他 の 受 験 生 だ つ た ら し い や は り 俺 が 介 入 し た こ と  
に 由 つ て  
多 少 の 誤 差 が 出 て い る み た い だ 原 作 で の ポンズ の 死 に か た に  
多 少 の 不 満 が あ つ た 俺 は も し ポンズ が 合 格 し 縁 ん が あ れば  
ポンズ を 焼 え る こ と も 有 り な ん じ あ い か と 思 つ よ う に な つ た い た 。

最 終 試 験 を 終 つ た 結 果 は ゴン、レオリオ、クラピカ、ハンゾー、ヒ  
ソカ、  
イルミ、ポックル、ポンズ の 8 名 も は つ キルア は 暴 走 し て ボドロ を  
殺 し た 、  
ゴン達 は キルア の 救 出 に 向 か う よ う だ 、 俺 は こ れ 以 上 ゴン達 に 関 わ  
つ て  
原 作 崩 壊 し て し ま う こ と を 避 け る た め に キメラ = アント 編 ま で は  
じ  
つ く り  
待 つ こ と に す ぐ 今 ま で 賞 金 首 を 捕 ま え る 生 活 ば か り し て い た の で ゆ  
つ く り  
世 界 を 見 て 回 り た い と 思 い 旨 に 挨 拶 を し て 会 場 を 後 に し た 。  
(ち な み に 主 人 公 の 原 作 知 識 は キ メ ラ = ア ン ト の 王 宮 突 入 ま で し か

ない  
(

## 出会い

最終試験会場を後にした俺はアジト（家）に戻り今後どう行動するか  
考えるために列車での移動中

（列車等公共の移動手段を用いる時身分証明として  
ハンターライセンスの提示が義務とされているが、  
それは同時にライセンス狙いの請負人を呼び寄せることに  
つながるので対応が面倒になる、それを避けるために  
主人公は公共の移動手段を用いる時に  
ライセンスの提示はしないことにしている  
入国の時にはライセンスの提示はしている）

時間を潰すためにまだ読みきってない小説を時間があるので読んで  
いると

「じきなり何するのよあんたたち！」

『ブシュ、ブシュ、ブシュ』

『ブ~~~~~ン』

なんだこれ蜂！~そつやつかいなこれでもくらえ~

『シュ~~~~~』

何や~り外が騒がしい、気になつたので声のする方に行つてみると  
全身黒ずくめのマスクを被つた、サイレンサー付きの拳銃を持った

男たちと

無数の蜂が戦闘状態になつていた

これこの臭いは . . . . . 催眠ガスか

ガスによつて眠らされた蜂達が次々とおちていく

クルト「（まさか . . . . 蜂 . . . . 考えるのはあとだ、  
とにかくこいつらを先にかたづけるか）」

こいつら程度に念を使つまでもないと判断した俺は  
男たちの首田掛けて手刀をはなち氣絶せることにする

『シユ . . . シユ . . . バタツ』

手錠を男たちにはめて次の駅で警察に引き渡した俺は、  
ターゲットになつた人物を確認することにした

『クルト』（やつぱり予想道理か . . . . . ）

現場となつた一室には気持ちよさそうに寝ている少女ポンズであった  
同じく眠つてゐる蜂たちを回収し終えた俺は  
ポンズが起きるのを待つために先程の小説を読み始めるのであつた

♪ポンズ side♪

最終試験を終え無事ハンターになれた私は今思えばかなり浮かれて  
いた

ゴン達はキルア救出に向かうと言つがそんな危険なことをしたくない  
私はゴンの誘いを断りハンターとしての活動を開始するために  
ヨークシンシティに向かう列車に乗つた

車掌「切符を拝見いたします」

切符と一緒にライセンスの提示をすると車掌が少し驚いた顔をした  
ポンズ「身分証明として提示が義務でしたよね？」

車掌「本物でお返しします」

この行動によつて生じる危険などこの時は  
全く予想もしていなかつた・・・

ガチャヤ

いきなりドアが開いたと思つたら黒ずくめの男達がいきなり銃を突きつけてきた

ボンズー いきなり何するのよあんたたち！」

『ブショ、ブショ、ブショ』

いきなりのことで動搖する私が弾をよけたのは  
奇跡としかいえない、

なんだこれ蜂！くそ、せ、かいな、これでもくらえ！

『シユ』

一人の男がはなつた煙を吸つてしまつた  
私はろくな抵抗もできないまま眠気が襲い  
眠つてしまふのであつた

（せつかくハンターになることが出来た）

このあの出会いで人生が大きく変わることをこの時は  
知るよしもないポンズであった

♪ ポンズ side End ♪

ポンズ「あつ . . .」

しばらくするとポンズが目を覚ましたようだ

クルト「とりあえず落ち着けあいつらなら俺が掃除しておいた」

ポンズ「あつ、あなたは、試験官のクルトさん、

ありがとうございました」

クルト「ポンズなんでこんなことになつたか分かってるか？」

ポンズ「. . . . . . . . . . . . .すいません分からないです」

俺は少し呆れながらも

クルト「プロハンターになつてまだ1日しかたつてないから仕方なくもないが  
自覚がなさすぎる、まずライセンスを身分証明として提示したんじ  
あないか？」

ポンズ「そうです . . . .」

クルト「ライセンスを提示するところじとは、同時にライセンス狙  
いの請負人を

呼び寄せることになるハンター専用サイトに繋げる時も同様だ、  
受かつたからと言つて浮かれてるところいつたことになる」

ポンズは顔を真つ赤にしながらつむくのであつた

ポンズ「私、何もできなかつた . . . 浮かれていたのはたしかです .

．．．

もう見てられなかつた俺は

クルト「ポンズ覚悟があるのならば戦うための力を教えよう、  
ただその力を手に入れるともう後戻りはできない」

ポンズ「．．．．．．．．．．．．お願いします」

クルト「俺のことはこれから師匠と呼ぶように、

それと俺の言いつけはちゃんと守るよう！」

ポンズ「はい！、師匠よろしくおねがいします！／／／

## アジト

ポンズ「…………師匠……どうむかってんのです？」

列車を降りた俺達は森の中を歩いている

クルト「すまん説明してなかつたな心配いらない、俺のアジトだ、これから教えるのは人に見せびらかす物でないんでな、

不安だと思つが今は俺を信じてくれとしか言えない」

ポンズ「いえつー疑つてゐわけじあなくて……」

クルト「これから教えることは早くても半年で基礎が出来ると思つてもらえばいい」

2時間ほど森の中を進んで行くと検問ところもある屏が見えてきた

「私有地にて立ち入り禁止無断で侵入した場合の生命の保証はしかねます」

と看板に大きく書かれていた

門番が一いち方に気がつき

クルト「弟子をとる」となつてな

門番「お帰りなさいませ、クルト様、そちらのお連れ様は？」

ポンズは状況をつかめていないのか啞然としている、それからも数人とすれ違い、

みな お帰りなさいませ と挨拶する

ポンズ「さつきから気になつてたんですけど、あの方達は？」  
クルト「ここ」の管理を任せてるんだ」

30分ほど進むと洋風と和風の一軒家が見えてきた

ポンズ「ここが師匠の家なんですか？」

クルト「ああ、そうだこいら一帯は俺の私有地だから誰の邪魔も入らない、

今日は疲れただろうこの家を貸すから好きに使ってもらつていい  
ポンズ、君は修行にのみ集中してくれたらいい」

と言つて洋風の一軒家を指さす

→ポンズ side

列車を降りて私達は森の中を歩いている、私はだんだん不安になつてくる、

もしかして騙されているんじゃないかと思い恐る恐る聞いてみる

ポンズ「…………師匠…………むかつてるんです？」

そんな空氣をさつしたのか師匠が

クルト「すまん説明してなかつたな心配いらない、

俺のアジトだ、これから教えるのは人に見せびらかす物でないんで  
な、

不安だと思うが今は俺を信じてくれとしか言えない」

私は焦つて

ポンズ「いえつー疑つてゐわけじあなくて・・・」

それから2時間ほど森の中を進んで行くと検問と20mもある屏が  
見えてきた

「私有地にて立ち入り禁止無断で侵入した場合の生命の保証はしか  
ねます」

えつ（；。。）一

どうゆうこと?

黒服の女性がこちらに気がつき

門番「お帰りなさいませ、クルト様、そちらのお連れ様は?」

クルト「弟子をとることになつてな」

．．．．．もしかして「」って師匠の  
家？

それからも黒服の女性と数人とすれ違い、  
みな お帰りなさいませ と挨拶する

ポンズ「さつきから気になつてたんですけど、あの方達は？」  
クルト「」の管理を任せてるんだ

ポンズ（なんで女性ばかりなんだ？）

みな女性であることに少し不機嫌になるポンズだった

ポンズ（今日はいろいろなことが有りすぎた明日のためにも早く寝よ  
う）

♪ポンズ side End♪

## ポンズの修行

クルト「ポンズ今日から修行にはいるが、これから教える技のことを念と書ひ、まずその危険性を認識してもらひ」

ポンズ「危険性ですか？」

クルト「そつちに立つて見てくれ、今から君を殺すと思つ、口にしたほうが分かりやすいだろ？」

ポンズ「？？？？？」

クルト「君を殺す！-！-！」

クルトはポンズにオーラをぶつける

『バタツ . . . . .』

ポンズ「 . . . . . はあ . . . . はあ」

オーラの発動をやめる

クルト「大丈夫か？、少し休憩しよう」

ポンズ「 . . . . . はい」

ポンズ「（何なの今のただ殺すと言われただけなのに  
師匠からまるで深海にいきなり放り出されたよつなす）い嫌な感ん  
じがした）」

クルト「何が起こったか全くわからないだろ？  
さつきは俺が君に向けて念を使つたもちろん手加減はしたが、  
もつと分かりやすくやって見よつか」

クルトはトランプを取り出すと念を込めて木に掛けて投げる  
するとトランプが木を貫通し地面に刺さる

クルト「これが念だ、念は体からあふれる生命エネルギーを  
自在に操る技術のことだ、その生命エネルギーのことをオーラとも  
言つ

普通はオーラは垂れ流し状態でそれと肉体にどじめる技術を纏言つ、  
纏によつて常人よりも体は頑強になり若さを保つことができるよう  
になる  
大事なのはここからだ悪意をもつて無防備な人間を攻撃したらオー  
ラで  
殺すこともできる、それを防ぐにはどうしたらいいと思つ？」

ポンズ「自分も念を覚えるですか？」

クルト「正解だ、でないと……」

クルトはてのひらを地面に当てオーラを放つ

『ド――――――ン

直径3mのクレーターが出来る

クルト「肉体は粉々になる」

真つ青になるポンズ

クルト「ポンズにはまず纏を覚えてもらう方法としては瞑想を取り入れてゆっくり時間をかけてやることになる、根気強くやることになるので覚悟すること」と  
それと併用して肉体の強化に務めてもうことになる、「いくら強いオーラを持つしていても肉体が貧弱なら強い力を手にすることは出来ない」

クルト「それでは早速始めようか」

1ヶ月後 . . . . .

クルト「（もう少し時間がかかると思ったが  
こんなに早く纏の習得に成功するとはな）」

その後もポンズは順調に絶、練、凝を習得していく

修行開始から三ヶ月 . . . . .

クルト「そろそろ発の修行にはいろいろ強化系、変化系、具現化系、特質系、操作系、放出系の六系統に分類される、さまざま要因から必ずこのどれかに当てはまることになる」

ポンズ「あの~どれに当てはまるかどう判断するんですか?」

クルト「水見式という方法がある」この変化によつて系統の判断をする、  
試しに俺がやって見るぞ」

水を入れ葉っぱを浮かべたグラスを用意しグラスに向けて練を行う  
ポンズ「 . . . . . . . . . . . . . . . . . . 何も変化が無いようです  
けど」

クルト「水を舐めて」  
「らん」

ポンズ「嘘つすぐ甘いーーなんで?」

クルト「水の味が変わるのは変化系の特徴だ、  
これは重要なことだから言つておくが  
むやみやたらと自分の系統を他人にばらすのは良くない」  
ポンズ「 . . . . . 自分の系統を知られると  
対策を取られることがあるからですか?」

クルト「そうだ、そのせいで命取りになることもあるから注意する  
ように」

ポンズ「なら師匠はなんで私にみせたんですか?」

クルト「信用してるので、短い間だか君を見ていて

信用できると思ったから見せたそれだけだ」

ポンズ「ありがとうございます！」

「クルト、ポンズもやってみるといい」

ホント、味も変わらない程がいいんだが、クルト「よく見てみると不純物が見えるだろ」これは

さらに半月後

クルト「ポンズこれで基本となる四大行が終了した、  
裏ハンター試験合格だ」

# ポンズ「裏ハンター試験？」

クルト「念の習得はハンターになるための最低条件ポンズはやつとスタートラインに立てたということだこれで卒業だ」

ポンズ「ありがとうございます、でもよかつたらなんですがこれが  
修行を付けてもらえたませんか?」  
らも

クルト「…いいだらう、ただ今までよりも厳しくいへぞ  
ポンズ「はい！／＼／＼」

## 第287期ハンター試験より2年がたつた

ポンズの発が形になつたので俺はハンターとしての活動を再開した、  
幻獣ハンターとしての活動をするものだと思っていたポンズは  
ハンターとして俺のそばで学びたいと懇願され断りきれなかつた俺は  
今もまだポンズと共に行動している

クルト「あんな涙目で言われたら断れないだらう……」

キメラ＝アントまであと1年

（主人公が原作介入したことによりヨークシンシティ編、キメラ＝  
アント編の  
時期がずれています主人公はキメラ＝アントまで介入しないようこ  
決めていたが  
巻き込まれていくのでここへ承ぐださい）

## ポンズの能力

名前：ポンズ

性別：女

年齢：18歳（ハンター試験合格時）

職業：プロハンター

系統：<sup>スヌメバチ</sup>具現化系

能力：雀蜂（具現化系）

切る、刺すなどすると蜂の羽のような模様  
(蜂紋華)が現れる

蜂紋華が現れている間に、攻撃が傷に当たると  
相手を10分間強制的に絶の状態にする

(ブリーチの碎蜂の斬魄刀の雀蜂)

制約

- ・蜂紋華が現れるのはポンズが飼育している蜂の数まで。
- ・具現化を解除及び攻撃があたつてから5分たつと  
蜂紋華が消えてしまう。
- ・蜂紋華が消えてしまった所に攻撃しても能力は発動しない。

## スピアーズ（操作系）

蜂を操作し、操作した蜂の視覚、嗅覚を共有できる、  
ポンズを刺すことで5分だけ  
ポンズの身体能力が1.5倍に増えるただし、  
制約にて（攻撃と判断される行動を蜂に命令すると蜂が  
死んでしまう）

とあり実行後には蜂は死んでしまう

制約

- ・自らが卵から育てた蜂でないと操作できない。
- ・蜂は10匹までしか操作できず、常に10匹しか飼育不可能。

（例：蜂が2匹死んでしまつと2匹新たに卵から育てることが可能）

・攻撃と判断される行動を蜂に命令すると蜂が死んでしまう。

- ・操作可能範囲は半径5kmまで。
- ・蜂1匹が物を運べる重さは5kgまで。
- ・蜂の針には毒がない。

主人公と修業中毎日組手をしていたため、近接戦闘が得意になっています。

## 念能力に関する基本的な説明（HUNTER×HUNTERを読んだことのない人）

### （系統）

#### ・強化系

モノの持つ働きや力を高める能力。主に自分自身を強める能力者が多い。

自分自身を強化すると、攻撃力だけでなく防御力や治癒能力も高まるため、

戦闘面では最も安定して強い系統とも言われている。

水見式ではグラス内の水の量が変化する。

#### ・放出系

通常は自分の体から離れた時点で消えてしまうオーラを、体から離した状態で維持する技術。

この系統の能力としては、単純にオーラの塊を飛ばす技が最も一般的である。また、体外に離した人の形などに留め操作系の能力で操作するという使い方もある。

水見式ではグラス内の水の色が変化する。

#### ・変化系

自分のオーラの性質を変える能力。

オーラに何かの形をとらせる技術も変化系に分類される。

オーラ 자체を別の何かに変えるという点では、

具現化系と共通点のある系統であるが、

変化系はオーラの形状と性質を変化させ、

具現化系はオーラを固形化させ物に変えるという違いがある。

水見式ではグラス内の水の味が変化する。

- 操作系

物質や生物を操る能力。

オーラ自体に動きを与える能力や、他の何かにオーラを流し込みその動きを操る能力もある。前者である場合、具現化系・放出系など

他の能力と併用することが多い。

逆に後者の場合は操作系能力単体で完結することも可能であるが、道具などを操作する能力である場合、道具に対する愛着や使い込みが

能力の精度に影響することが多く、その道具を失うと能力が発揮できなくなるリスクがある。

水見式では水面に浮かぶ葉っぱが動く。

- 具現化系

オーラを物質化する能力。

オーラに形を持たせるといつ点では変化系と共通する部分がある。

オーラを物質化するほどに凝縮するには相当に強いイメージが必要である。

物質化したものに特殊な能力を付加する者が多い。

また、人間の能力の限界を超えたものは具現化できない

水見式ではグラス内の水の中に、不純物が生成される。

- 特質系

他の5系統に分類できない特殊な能力。

血統や特殊な生い立ちによって発現する。

他の系統に属する者でも後天的に特質系に目覚める可能性がある。

特に特質系と隣り合う操作系と具現化系の能力者が特質系能力に目覚める可能性が高いとされている。

水見式では上記以外の変化が起きる。

## （四大行）

念の基本となる修行。

### ・纏

オーラが拡散しないように体の周囲にとどめる技術。

纏を行うと体が頑丈になり、常人より若さを保つことができる。

### ・絶

全身の精孔を閉じ、自分の体から発散されるオーラを絶つ技術。気配を絶つたり、疲労回復を行うときに用いられる。

### ・練

体内でオーラを練り精孔を一気に開き、通常以上にオーラを生み出す技術。

### ・発

自分のオーラを自在に操る技術。

念能力の集大成。必殺技ともいわれる。

## （念の応用技）

応用技は四大行と比べ疲労が激しい。

### ・周

「纏」と「練」の応用技。

物にオーラを纏わせる技術。刃物の切れ味を強化するなど、

対象物の持つ能力を強化する。

・ 隠 イシ

「絶」の応用技。自分のオーラを見えにくくする技術。  
「凝」を用いても、全ての「隠」を見破ることができるのは限らない。

・ 凝 ギョウ

「練」の応用技。オーラを体の一部に集め、増幅する技術。  
オーラを集中させた箇所は攻防力が飛躍的に上昇し、  
その他身体能力も上がる。

目に集めてオーラを見ることも意味する。

熟練者は「隠」で隠されたオーラをも見ることができ。

・ 堅 ケン

「纏」「練」の応用技。

「練」で増幅したオーラを維持する技術。

念での戦いは主に「堅」を維持したまま鬪うことになり、  
これが解けると防御力が著しく落ちるため、  
よほど実力に差がない限り一瞬で敗北という状況にもなる。  
維持する時間を10分間伸ばすだけでも1か月かかると言われている。

・ 円 エン

「纏」「練」の応用技。

体の周囲を覆っているオーラを自分を中心半径2m以上広げ、  
1分以上維持する技術。「円」内部にあるモノの位置や形状を

肌で

感じ取ることができる。

・硬カタ

「纏」「絶」「練」「発」「凝」を複合した応用技。

練つたオーラを全て体の一部に集め、

特定の部位の攻撃力・防御力を飛躍的に高める技術。

「凝」の発展形とも言える。「凝」による強化との違いは、「絶」を併用してオーラをより強く集中するため、

攻防力が桁違いに高いということである。その代わり、オーラを集中していない箇所はオーラが薄くなるのではなく、「絶」状態になつてしまつたため、攻防力は「凝」の時よりもがた落ちする。

・流リュウ

「凝」の応用技。

オーラを体の各部に意識的に振り分ける技術。

「凝」の項目にあるとおり、「凝」は他の部位の攻防力が落ちるので

リスクをともなう技術である。

「流」による攻防力移動は、

念能力者同士の戦いにおいて基本であるとともに、奥義でもある。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7183z/>

---

HUNTER × HUNTERの世界

2011年12月27日19時56分発行